

加東への思い  
わたしの目線

加東の防災力

わたしの目から見えるもの

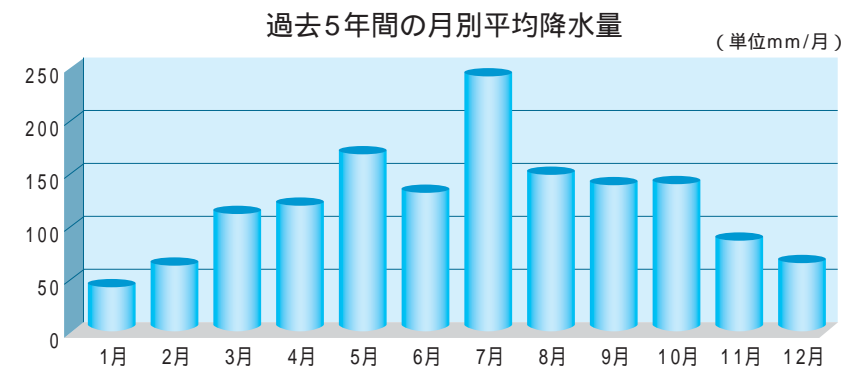
七月は一年で最も降水量の多い季節です。  
市では、この時期に備えて、防災ガイドブックを作成し、市内全世帯に配布いたしました。  
このガイドブック作成にも携わっていただき、市の消防団員千二百六十八人を率いて、加東

加東市消防団長



吉田繁(よしだしげる)さん  
昭和52年から旧社町消防団副団長  
平成11年から同消防団長  
平成18年3月から加東市消防団長

市の防災の最前線で活躍していただいている吉田繁加東市消防団長に、最近話題の「地域の防災力」についてお話をうかがいました。



7月の降水量が最も多くなっています！

(気象庁西脇アメダス観測地)



加東市防災ガイドブックは、  
(1) 国、県などの関係行政機関の職員  
(2) 加東市区長会代表区長  
(3) 消防団長  
(4) 台風23号において被害の大きかった地区の区長  
(5) 加東市の関係部局の職員  
以上のメンバーで構成される「加東市防災マップ」作成委員会において作成されました。

Q 加東市防災マップ作成委員として、どのような思いで取り組んでいただきましたか？

【吉田団長】  
これまで、旧社町と旧滝野町では、加古川のみを対象とした洪水ハザードマップが作成されてきました。  
今回作成された防災マップは、加古川以外に東条川、千鳥川、三草川が追加され、河川の氾濫以外にも土砂災害の危険性が、市内全域について表示されており、全市民の方に注意を呼びかける内容になっています。

Q 加東市の防災力をどのようにお考えですか？

【吉田団長】  
「防災力」とは、自然現象が地域社会に風水害や地震などのさまざまな影響を与えるときに、それらに対抗するために私たちが持つさまざまな「力」であると認識しています。  
対抗するための「力」には、施設を整備して災害を防ぐ力と、防ぎきれなかった場合に被害を最小限にとどめて、早急に復旧させる力があると思います。平成十六年の台風23号の被害を受け、国、県市では、河川改修や防災資器材の備蓄などが進められており、災害を防ぐ力は、年々高まっていると思います。しかし、地球温暖化などの影響で近年は災害が大型化する傾向にあり、それらに対抗するためにも、一層の防災設備の整備に期待したいところです。  
一方、被害を最小限にとどめるための、いわゆる「被害軽減」と呼ばれる対策は、市からの情報伝達のあり方やそれに基づいて、私たち消防団や地域の自主防災組織がとる災害対応そのものが問われているように思います。  
台風23号において、人的被害(負傷者など)がほとんど出なかった要因は、地域のつながり、団結の強さが生み出した防災力によるところが大きかったと考えています。  
私たちは、まだ高める余地はあるものの、すでに強い防災力を持っていると考えています。

防災マップは、すべての市民の方に、災害は自分の身、地域にも起こる可能性があるということを認識していただけるものでなければならぬと考えています。

私は日頃から、被害軽減の防災力を高めるために、自分の身は自分で守るという「自助」の意識を強く持つていただきたい、そのための知識、能力を深めることに努めていただきたいと思います。

ガイドブックには、地震、風水害、土砂災害など、あらゆる災害への対応や心得が記載される必要がありますが、災害により異なる対応方法を、できるだけわかりやすい表現として、すべての方々の自助能力を高める内容になるようにと要望いたしました。

また、各家庭において保管しやすいくいざというときに十分活用されるような冊子形式に工夫されている点も私は高く評価しています。

災害時の三つの「助け」

- 自助**  
自分の手で自分・家族・財産を守る備えと行動のこと
- 共助**  
近隣住民が協力して地域を守る備えと行動のこと
- 公助**  
行政機関などの「応急対策活動」